

女性会員, ボラ活動を語る



座談会出席者

福祉部会 (一寸奉仕)	増金スミ子(福11)
国際部会 (会計)	芳賀順子(福10)
文化部会1 (KSCマジッククラブ)	南形公子(福13)
文化部会2 (KSC手話ソング同好会)	山下春美(福8)
文化部会2 (SCクラブ大正琴)	前田仁子(福11)
本部 (PJ花実の森)	橋野美子(一般)
環境部会 (タンスの肥やし)	藤本明美(生17) = 誌上参加

グループわ 広報は、十一月二十七日、ベテランの女性ボランティアに集まっていただき、へわへわに入った動機、どんな活動をしているか、活動を始めたきっかけなど、大いに話していただきました。時の首相が「女性が輝く社会」とぶち上げる時代、女性らしい視点からの貴重な意見もあり、ざっくばらんに有意義なお話を聞くことが出来ました。

◆〈わ〉に入られた動機は？ したいことは？

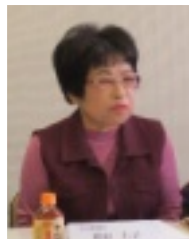


南形 平成9年に酒鬼薔薇事件が須磨区で起き、直感的に今後は、シルバー世代が子供の面倒を見ないといけないと感じた。カレッジ入学直後、「学習支援活動に参加しないか」との要請を受け、カレッジの実情がよく

わからないまま、ごく自然にボランティアを始めた。

橋野 阪神大震災が平成7年に発生した。一期生の学生さんが、大車輪のボランティア活動を展開、その後〈わ〉を結成された。カレッジ事務局員だったが、その素晴らしい情熱に感激、NPO法人になった時点で加入。子どもたちに関わる仕事がしたかった。

前田 小学生のころ、日曜教会で牧師さんから「人さまから頂くより、人さまに与えることが大切」と教わった。60歳を超えて、退職、やっと、チャンスが回ってきた。大正琴クラブを結成して10年。元気な間は社会にご恩返しをしたいと願っている。



山下 カレッジに入学したてのころ、手話歴20年の同じ班の友だちに「一緒にやりませんか」と声を掛けられた。華やかなハイアソンをと思っていたのをやめ、手話を始めた。この友達は2年生の時、ガンで亡くなり、いつの間にか自分が中心的な役割をつとめていた。平成17年、手話ソング同好会を〈わ〉に立ち上げ、代表になった。9人で始めたものが今50人。月に3、4回活動している。今年で代表を辞め、楽になった。活動を間引き、銭太鼓やグラウンドゴルフを楽しんでいる。

芳賀 さる11月15日の神戸マラソンで国際部会の仲間5人と通訳ボランティア、神戸の姉妹都市シアトルからの来訪者の観光案内・交換留学生のホームステイ、国際学会参加者家族への日本伝統文化紹介講座の通訳、〈わ〉総会での司会を4、5年つとめた。〈わ〉以外で



は、女性の地位向上と子供支援をめざす国際奉仕組織フェニックス神戸ソングクラブで19年間活動している。
増金 24歳で結婚、子どもが保育園に入ってから婦人大学に入学、卒業した28歳ころから活動に打ち込み40年。困った人を助けるのは当たり前。休みは月2日しかないけど、元気で働けて幸せだ。

藤本 グループ学習で「古着の行方」を勉強し、卒業後、カレッジ校舎内に古着回収ボックス設置を仲間と検討。カレッジ事務局から「〈わ〉としてなら設置を認める」というお話があり入会を決めた。

◆どんな活動を？、印象に残ることは？

南形 小学校の特別支援を週に1回10年。マジックボラを月に2、3回。近所の友達と2人、幼稚園で読み聞かせ。幼児の目の力が強く、本に引き込まれていることがよくわかり、楽しい。このほか、民生委員。

橋野 地域では、「三木に住んでいるのに、神戸でばかり活動。民生委員をやってよ」とお願いされた。80歳過ぎた方が「頼まれたことを断ったことがない。自分を試されていると思うから」という言葉に共感、引き受けた。



花実の森PJで里山に散策道を作り、子どもたちと自然観察会を開く。木の枝をチップに砕き積んでいたら、いつの間にか、カブトムシがチップの下に卵を産み付け、幼虫200匹が生まれ、驚いた。ボラ活動は日々の生活そのもので、生きがい。

前田 須磨区名谷に大正琴クラブを立ち上げた。5人で発足したが、今10人。老人施設訪問では喜んでいただくのがモットー。歌詞カード1つでも大きな文字で作る。大正・昭和の懐メロと一緒に歌うと日ごろ愛想のない90歳がニコニコされる。デイサービスは毎月7回以上訪問。竹の台小学校では伝統文化教室にも参加

ボラ活動は生きがい／自分が豊かになる

している。

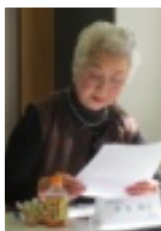
山下 特別養護老人ホームで手話ソングを楽しむ。



長い付き合いなので、顔なじみ。お年寄りから「はやりの歌もやってよ」と注文が出る。交通事故を防ぐため、子どもの見守りもやっている。最初、はにかんでいた男の子が最近傍に自らよってきて

「おはようございます」と挨拶する。とくに小学1年生は本当に可愛らしい。

芳賀 活動を長く続けていると様々な経験と人脈が広がり枝葉がついて自分が豊かになる。ソントクラブで李広宏氏と共に、中国四川大地震で片足を切断した女子高生に日本の義足をプレゼントした。「スカートがはける」と大喜びだった女子高生の段志秀さんが日中友好の懸け橋に成ってくれたら嬉しい。



増金 自宅を開放し週2回ふれあい喫茶を10年。近所のお年寄りら15、6人が来てくださる。週1回大道芸の一寸法師、自宅で月に2回学童保育、民生委員など。ある時、97歳のおばあさんが「南京玉簾私1人でも見せてくれるか」といわれ、小さな自宅を訪ねた。雨が降る中、窓の外で演じた。喜んだおばあさんの顔は一生、忘れられない。



藤本 毎週金曜日、2人1組の当番制で古着回収ボックスの回収管理を行う。第4金曜日はメンバー全員で定例会。打合せや着物リメイクの情報等を交換している。活動開始3年目で9トン以上回収、活動が支持されていると実感している。

◆〈わ〉本部へ望むことは？

山下 事務所を訪ねると理事の皆さんは壁際に置いたパソコンに向かって、どなたも振り向かない。ちょっと手を止めて「こんにちわ」と声をかけてくれるだけで、うんと話しやすいのに。

橋野 本部はボランティアのコーディネートだけでなく、困ったこと、失敗したことを相談できる、明るく開かれた話しやすい本部になってほしい。

前田 我々は10年、15年と息の長い活動をしているのに、理事任期は2、3年。理事長ら数人はすべてに精通している人が必要。何人かは5、6年続ける必要があるのでは。

南形 組織が縦割りで、しなやかさが無い。オー

ブンな話し合いが欠けているのでは。

橋野・南形 学習支援委員会について組織の在り方、運営の改善が必要ではないか。

全員 カレッジ学生に〈わ〉のことを知ってもらう授業がある。第一線でボラ活動をやっているベテランの今日出たような体験談を話すと効果があると思う。

芳賀 地域・社会のニーズに沿う活動を。お互いの意見や個性を尊重することが一番大切。

(司会・文まとめ 広報 永野知己 写真 藤田健一)

部会 レポート

ケナフの和紙つくりと炭焼きを体験

グループわの「ケナフの会」主催の「しあわせの村の自然を探そう」が秋晴れの10月31日午前9時30分から正午まで開かれました。子供たちが父兄と一緒に、竹炭焼き、ケナフ紙漉きを楽しみました。炭焼きでは子供たちに材料の竹を炭焼き釜に入れてもらい、炎が出始めると、歓声があがりました。紙漉きでは父兄も子供たちに負けずに、真剣になって、きれいな押し花で、ハガキや、しおりを造っていました。スタッフも天真らんまんとなった秋の1日でした。



(ケナフの会代表 前田浩三・生14)

KSC男声合唱団が台湾で招待演奏

KSC男声合唱団31人は10月22日～26日、台湾NPO「弘道老人福祉基金会」の招きにより台北で演奏会に出演。台北小巨蛋（アリーナ）で「仙角百老匯」（高齢者の芸能交流演奏会）と題して23日にリハーサル、24日に演奏しました。昼夜2回、それぞれ約10,000人の観衆を前に演奏。

蛙の面をつけた振付で「筑波山麓男声合唱団」で歓声があがり、台湾語で「望春風」、現地でも人気の高い「北国の春」を歌い、満場拍手喝采の嵐。また、出演の合間には他の現地出演者との楽しい交歓ができ、日台交流を深めました。

(KSC男声合唱団 吉本 弘・音17)